

市民の声募集中

市政に思う

今回も4人の方に市民の声をお願いしました。
現在市民の声を募集しています。

《問い合わせ先》議会広報特別委員会 ☎42-6310

良い自然環境の中で 生活を始めました

沖美町 前田 敦子

私たちは、3年前に広島市内から沖へ移住しました。町から離れ、海の側で暮らしたいと思い、インターネットで調べ、仕事・学校・住居・実家から遠くならないという条件に合うえたじまを選びました。移住の1年前から何度か足を運び、おためし暮らしをし、空き家バンクを利用した後、家を建てたという、理想の(?)移住者です。主人は、ここに来たからにはと、島

内で就職をしました。

地域の方々に恵まれ、とても仲良くしていただき、子どもたちも三人がのびのびと成長しているように思います。本当に感謝しています。その暮らしの中で島外から来た私たちだからこそ、思うことがあります。

まず、島のいい所。

- ①海も山もあり、季節ごとに、いつでも自然に触れることができる。
- ②保育園や学校で、少人数ならではの、上下のつながりをもてること。
- ③ウエストバザールなどで、新鮮な野菜を買い、食べる事が

できる。

次にもつたいない所。

- ①島の自然を取り入れた子供の活動が少ない。
- ②連れで島に遊びに来て、飲食できる所が少なく、トイレや公園の設備が整っていない。
- ③海産物を手軽に買える場所がない。

ということですが。

これからずっと島に暮らす方にも、これから島に住んでみようと思っている方にも観光客の方にも「島の魅力」を存分に知ってもらい、皆が満足できる島であり続けてほしいと思っています。



新米漁師

大柿町 柴倉 孝之



幼い頃から憧れていた漁業への道を目指すべく2015年の春に新規漁業就業者支援制度を利用し、広島市内から妻と江田島市大柿町に引っ越してきました。

1年間、先生となる漁師さんの船に同乗し操業する中で海の事や魚のことなど漁業に関する様々な事を教えていただきました。そして研修を終え、漁船を購入し、今年の春に1人での操業を始めま

した。しかし1人での操業は、まだまだ失敗や苦業も多く、なかなか思うような水揚げにならず厳しい時期もあるのが現状です。研修当初から、組合長さんをはじめ周りの漁師さんや漁協の方、市の職員の方に至るまで、色々な方に相談に乗っていただき、またアドバイスしていただき、本当に感謝しています。

まだまだ始まったばかりの漁師への道。勉強を

重ねながら、少しずつでも効率を上げ、漁獲を増やせるように努力していきます。そして余裕が持てるようになったら地元で地の魚を食べられる場所や機会をもっと増やしていく活動にも参加していけたらと考えています。

現在、妻と1歳を迎えたばかりの息子と3人暮らし。島での生活は、街での生活と比べると不便な部分もありますが、近所の方々に親切にしてい

ただき、少しずつ心が豊かに育っているのを感じています。

この島の豊かな自然と素晴らしい環境の中で、息子と共に親である自分たちも一緒に成長していきたいと思っています。



市民の声

古民家で

「古き良き日本」 を海外へ紹介

江田島町 上野 加代



私がこの仕事を始めたきっかけは、祖父が持っていた東郷平八郎の肖像画の葉書をアメリカの方で販売したことからでした。外国人は思う以上に日本の古いものや伝統、そして景観に興味があり魅力を感じているようです。引き続きたんすの奥に眠っていた着物、人形、漆器などを紹介してみたところ、ほぼ全て高評価です。

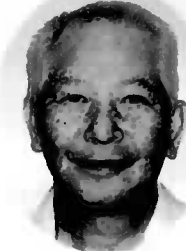
たのか？それは「廃棄されてしまうかもしれない日本古来の「モノ」を大切にしたいと願う延長線上、この通信販売を続けながら空き家の古民家も活かした形でありたいと思ったからです。日本の美しい言葉の一つにケニア人女性のワンガリマータイさんが世界共通語として提唱する「モックナイ」があります。これは3R「ゴミ削減」「再利用」「再資源化」。私一人でできることは限ら

れています。廃棄を考えている物でも外国に渡れば喜んで大切にしてくれる。フリーマーケット開催などが、一つのアイデアですが、需要と供給をうまく循環させていけるチャンスを提供することができれば！と願っています。

1年余り住んでみて体感した瀬戸内の穏やかな海に浮かぶ島の良さや地物を身近なところから紹介していますが、地図上、厳島神社のある宮島から遠くないので外国人からは簡単に往來のできる島と思われるようです。この点もPRポイントと考えています。

限界集落における 地域活性化への 想い

能美町 楠 幸二



緑なる能美の島を出てから40数年間、広島の実業へ勤め大阪、東京の支社勤務は約20年。還暦を迎える頃にUターンして母親の住む実家に帰ったのが8年前。農地を耕してイモや、大根、白菜など野菜や豆、ネギ類を作り「人生の楽園」を満喫できれば良いな」と考えておりました。(イノシシ被害に悩まされているのが実情ですが)

情報交換できるようにしなければと一念発起して「仲良し熟年クラブ」を立ち上げ、55〜70過ぎのいわゆる若者？世代での飲み会を始めました。毎年夏と冬の2回、夫婦での参加を基本とし現在に至っております。

初めは仕出し弁当に酒・焼酎・ビールやつまみなどの買い出しから始めましたが、数年後には、主婦連の好意的な提案で手作り料理へと変わり、今や会費は当初の半分で、

たらふく飲んで食べられるようになり、大満足しております。おかげで参加メンバーとは趣味の話、健康の話や日常の出来事など、何でも話が出来るいつも盛り上がりつつあります。

今年度から自治会のお世話をさせて貰う事になりました。自治会長として皆さんのお役に立てるよう心掛けることが大切ですが、それにはある程度の自己犠牲も伴います。がしかし、ここはお世話

